

令和4年 3月

朝倉は騒がしい都会から少し離れた平和な場所なので、安心感があり、戦争が遠い存在に感じられるでしょう。国際ニュースでは、最近ウクライナの戦争についていつもヘッドラインで取り上げている。戦争が起きると、ガソリンや輸入品の値段が上がる。

確かに戦争は悪いことですし、朝倉にも傷跡が残っています。私の家の近くには、第二次世界大戦中に爆撃機によって子供たちが犠牲になった「頓田の森」があります。よく見ると、朝倉には旧陸軍の基地跡が残っていて、静かに過去を語っている。

カンボジアやドイツなどでは、戦争遺跡を博物館として再建し、観光客に現地の様子を伝えることがあります。日本にもすでにそのような遺跡がありますが、そのほとんどは近代化以前の遠い歴史のものです。現代の戦争遺跡も博物館になれば、より親しみやすく、より教育的なものになるのではないのでしょうか。

恥ずかしくて忘れたいことかもしれませんが、それは戦争で犠牲になった人たちが、脈々と受け継がれてきたものでしかありません。平和教育は、誰かを責めたり、遺族に嫌な思いをさせたりするものではなく、起こったことを受け入れ、同じ過ちを繰り返さずに前に進むためのものなのです。「戦争をしない」というのはもはや常識ですが、「戦争とは何か」「平和を維持するためには何が必要か」を知ることが重要です。